

近隣トラブル無縁の犬作り

見とりゃーせ 名古屋の挑戦

「犬を飼いたい。でも、ワンワン、キャンキャンで近所とのトラブルが……」。動物好きが都会に住めば、だれもが一度は抱く悩み。無駄吠えしないかわいくて、そんな犬がないものか、と探した人も多いはず。じゃ、作ってしまおうと、理想のシティー・ドッグ作りへの取り組みが続いている。その名もナゴヤ犬。そう、考えたのは名古屋の人たち。いかにも、らしい、この声もあるが……。

舞台は名古屋動物愛護センター。アイデアが浮かんだのは、四年ほど前のことだ。当時所長だった有馬司さん（現市環境食品課長）が話す。「捨て犬を保護して、犬を求めている人にあげる、いわば『再生』がセンターの仕事の一つなんです。が、うせなら、飼いやすい、いい犬を、と考えるようになりました。ナゴヤ犬は、担当者たちの、そんな気持ちの発露なんです」。

それにも一つ。ペットブームの裏での近隣トラブルの増加だ。例えば、同センターに寄せられる苦情だけでも、鳴き声やフンの始末など年間一万件近くにものぼる。新都

その名もナゴヤ犬

昭和六十二年五月、雄雌二組が購入された。残念ながら、柴の雌は死亡したが、雄「シン」(ラブラドルの雌「アイ」)から待望の赤ちゃんが六匹生まれた。昨年六月、ちよつと驚いたことは、茶と白系統の両親なのに、子犬は、そろって真っ黒だった。それに「思

父—三河柴 母—ラブラドル



両親はノミの夫婦。父「シン」(♂)と母「アイ」

小さい 賢い かわいい

理想の「新都市型犬、目指し

1世代い 6匹

「しつけの方が効果」の意見も
専門家目はしかし、ちょっと厳しい。犬の繁殖に詳しい日大農獣医学部の武石昌敬

が与えられ、間もなく六人の飼い主に分けられた。この犬たちの成長を観察しながら、さらに交配を重ねる。新犬種への取り組みが本格化したのだ。

か細い鳴き声
キュンキュン
飼い主の一人、鶴見八郎さん（会社社長）宅を訪ねてみた。今は家族の一員となった「第一雑種」（雄）の名は「シンケル」。ゴルフ好きでもあるご主人の期待のほどがうかがえる。

庭にいたシンケルの姿、形は小さめのラブラドル。鶴見さんによると「気は優しく、力持ち」。そして何より「ワン」と鳴かない。では、何と鳴く？ 「なやーも」とは言わない。おねだりする時などに「キュンキュン」と細い声を出すのだそう。

「名古屋には、東京、大阪と張り合ってやろう、名実共に日本の中心に」という気概がある。ナゴヤ犬はそんな意地の表れだ。『シンケル』は犬離れた、利口な犬だ。それに、よく人を見る。オレは好きだな。ご主人は、声高らかに。

たは、離る人が、いっしょに、愛でる。